

泉州医療懇話会の概要

開催日時：平成29年11月10日 午後2時～3時30分

開催場所：大阪府泉佐野保健所 3階 講堂

出席委員：和泉市医師会、高石市医師会、泉大津市医師会、岸和田市医師会、貝塚市医師会、泉佐野泉南医師会、和泉市歯科医師会、貝塚薬剤師会、市立岸和田市民病院、和泉市消防本部、高石市保健福祉部、熊取町健康福祉部、大阪府保健医療企画課、泉州圏域の保健所長 欠席：りんくう総合医療センター、大阪府病院協会

■議題1 「第7次大阪府保健医療計画 府域編（案）」
（大阪府保健医療企画課から説明）

■議題2 「第7次大阪府保健医療計画 圏域編（案）」
（大阪府泉佐野保健所から説明）

（主な質疑応答・意見等）

- 医科歯科連携、口腔ケアについて、歯科医師ができるだけ退院時のカンファレンスに出席し、退院後のケアまでしっかり診ていくことを重点的に行っている。
糖尿病についても、糖尿病手帳を利用して来年度も医科歯科連携を進めていく。
- 国の委託事業の「平成29年度患者のための薬局ビジョン推進事業」から、府がモデル事業として実施する「地域連携による在宅医療サポート事業」を泉州圏域の薬剤師会で開始した。薬局で連携を強化し、健康サポート薬局制度等を活用して、24時間365日の対応を目指していく形で進めていく。
- 2025年に向けての試算では、施設がほとんどなく、またサービス付き高齢者住宅が在宅に含まれるため、ほとんどは医師会の医師が在宅で診ていかないといけない。基幹病院、療養型病院など病院間の連携と多職種連携で対応していく必要がある。
- 今後、病床機能を調整する際、病態急変時の受入病院の拡充を進めていかなければならない。
バックベッドがないため、なかなか在宅に踏み切れないところがある。
- 訪問診療医の拡大のため、医師会コーディネーター事業で主治医・副主治医制を作った。
ICTを活用し、多職種との連絡体制をとっている。

- 医師会圏域の各市町に後方支援病院を設定し、必ず受け入れてもらう。その病院が難しければ、基幹病院が受入れるという２段階方式のシステムを作り、稼働させつつある。
- 懇親会等を通じて、後方支援病院の医師や多職種と顔の見える関係をつくり、在宅や施設の関係者と連携を進めているところ。
- かかりつけ医がいても、サービス付き高齢者住宅に入所すると、施設が契約している他市の医師が診療を行うことになっているが、急変時や看取りの対応が十分でない現状がある。
今後、独居高齢者が増加する中で、地区医師会がどのようにサービス付き高齢者住宅入所者に対応していくのかが大きな問題になっていく。
- 薬局についても同様で、他市医師会が市内にサテライト医院を作り、施設への訪問を行っている場合、調剤は基本的に他市の薬局で行い、緊急時のみ市内の薬局に頼みに来る現状で、かかりつけ薬局の機能がない。
今年度の薬事懇話会の中でも、その問題が指摘されていた。

事務局：本日の意見を取りまとめ、後日開催される「泉州保健医療協議会」で報告させていただく。